

北丹後地震から 100 年

地域の記録と未来への備え

橋爪紳也

大阪府特別顧問／大阪市特別顧問

大阪公立大学名誉教授／大阪公立大学研究推進機構特任教授

大阪公立大学 大阪アーバンデザイン&マネジメントセンター所長

イベント学会副会長／日本ディスプレイ業団体連合会理事

大阪商工会議所 都市再生委員会副委員長

近畿運輸局観光アドバイザー

公益社団法人商業施設士技術団体連合会会長

一般社団法人生きた建築ミュージアム大阪会長

丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会委員長

- 1 はじめに
- 2 北但大震災と北丹後地震
- 3 震災の遺産
- 4 災害の記憶と記録を次世代に伝える
- 5 復興建築の利活用に向けて





詔
定
記
災
變









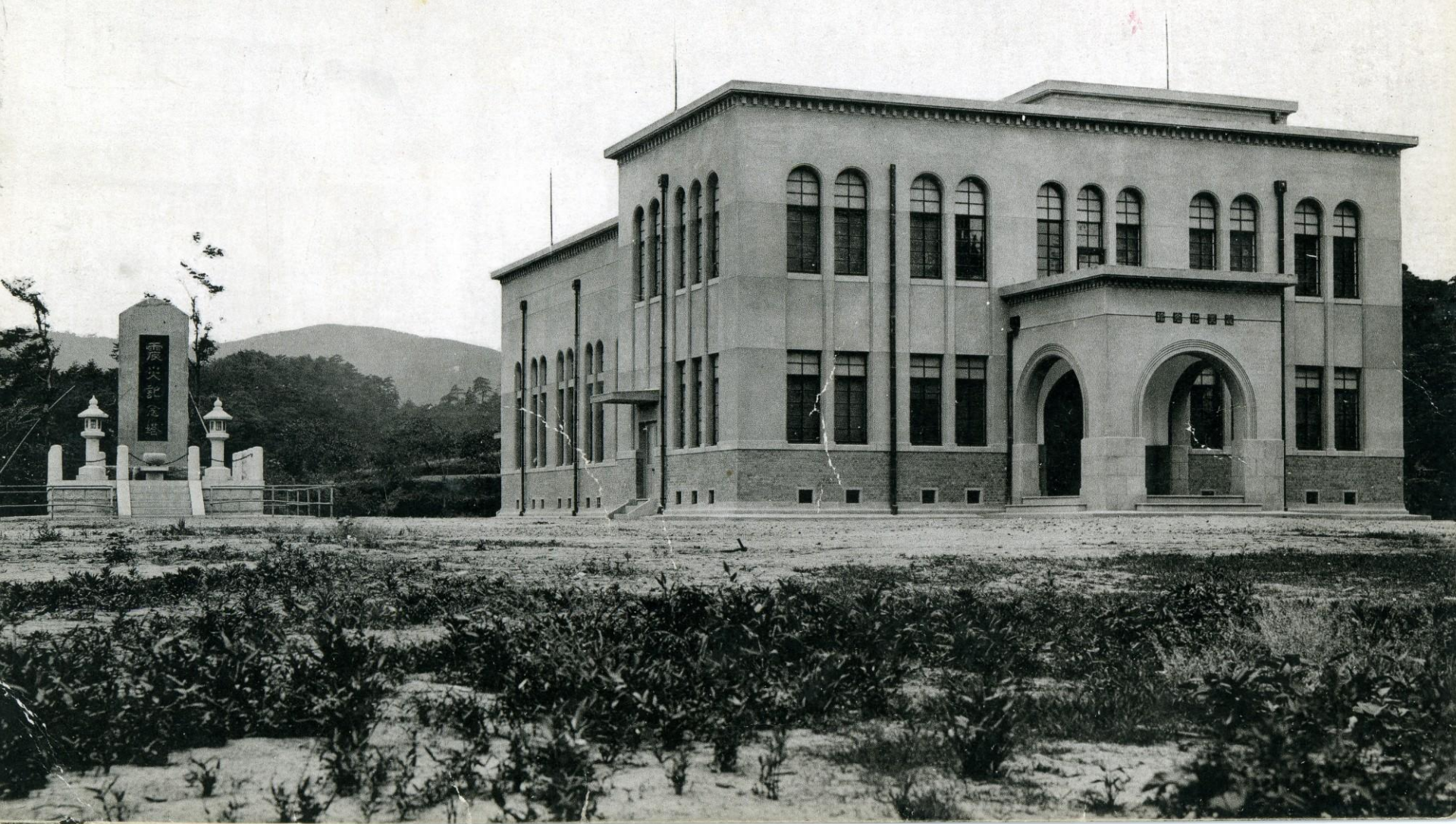








View of Mineyama Tango.
塔念紀及館念紀災震



View of Mineyama Tango.
塔念紀及館念紀災震



昭和2年3月7日に発生した丹後震災。

その記憶を後世に伝えるシンボルとして、昭和4年12月、丹後震災記念館が建設されました。

震災から100年の時が近づく今、丹後震災を再認識し、記念館の利活用のあり方を一緒に考えてみましょう。

(※丹後震災記念館は耐震性能不足により、平成24年から内部立ち入り禁止としています。)

丹後震災記念館

パブリック
ミーティング

- 1 はじめに
- 2 北但大震災と北丹後地震
- 3 震災の遺産
- 4 災害の記憶と記録を次世代に伝える
- 5 復興建築の利活用に向けて

北但大震災と北丹後地震

- 大正12年（1923） 関東大震災
- 大正14年（1925） 北但馬地震（北但大震災）
- 昭和02年（1927） 北丹後地震（丹後震災）
- 昭和18年（1943） 鳥取地震
- 昭和19年（1944） 昭和東南海地震
- 昭和20年（1945） 三河地震
- 昭和21年（1946） 昭和南海地震
- 昭和23年（1948） 福井地震

北但馬地震（北但大震災）

- 大正14年（1925） 5月23日、午前11時11分
- 地震規模 M6.8
- 死者428名、負傷者1,016名
- 全壊1,733棟 半壊2,106棟 一部損壊45,659棟
- 焼失2,328棟¹
- 豊岡の市街地の約7割が焼失
- 城崎では炊事中に家屋が倒壊、多くの女性が焼死
- 久美浜で大きな被害。発災時「但馬丹後大震災」とも。

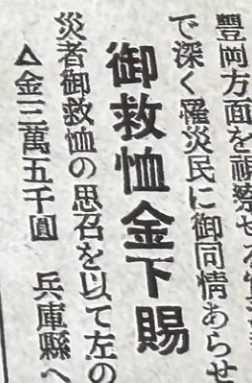
大震災寫真報

但馬丹後

【昭和十一年九月三日發行】



黑田侍從御差遣







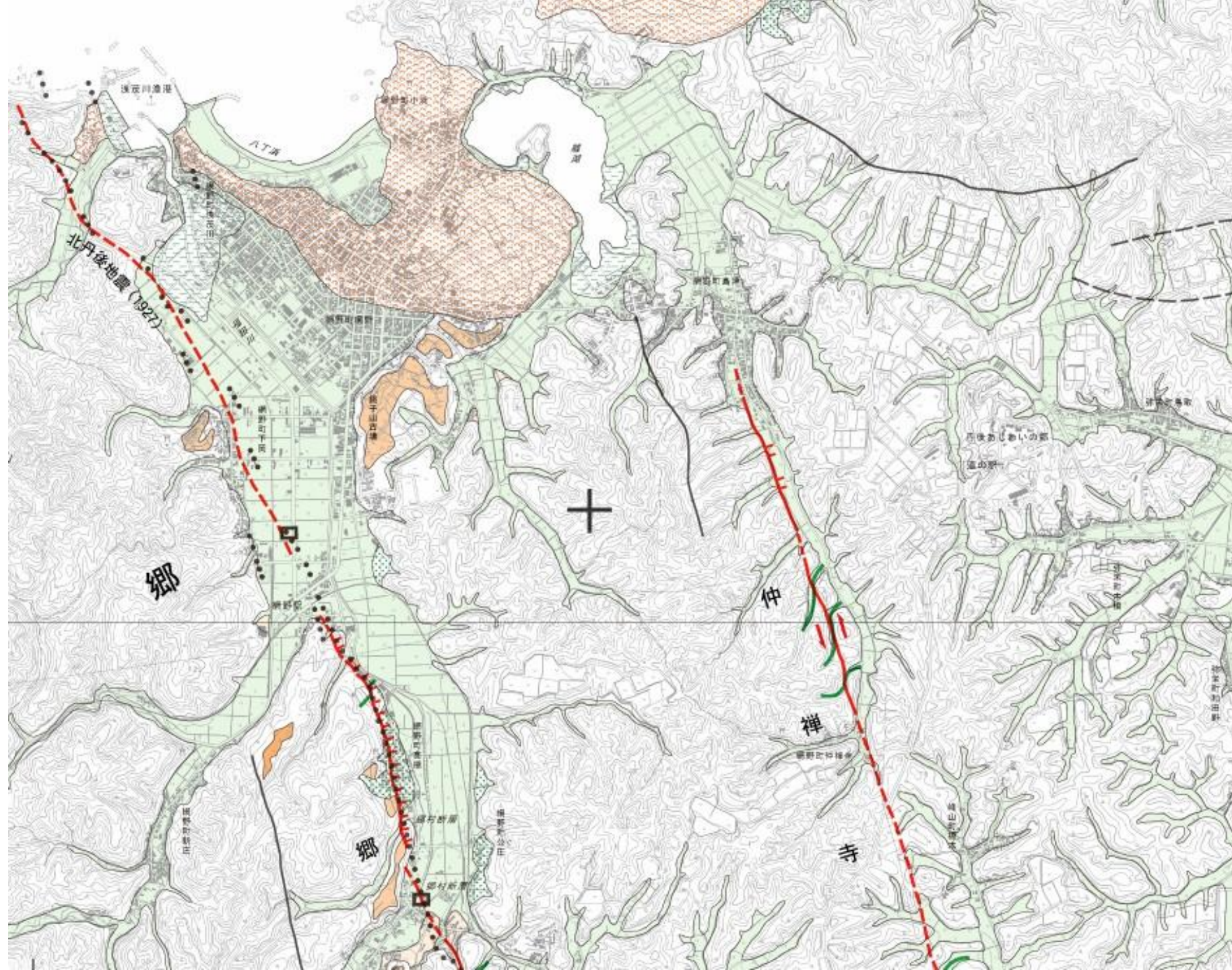


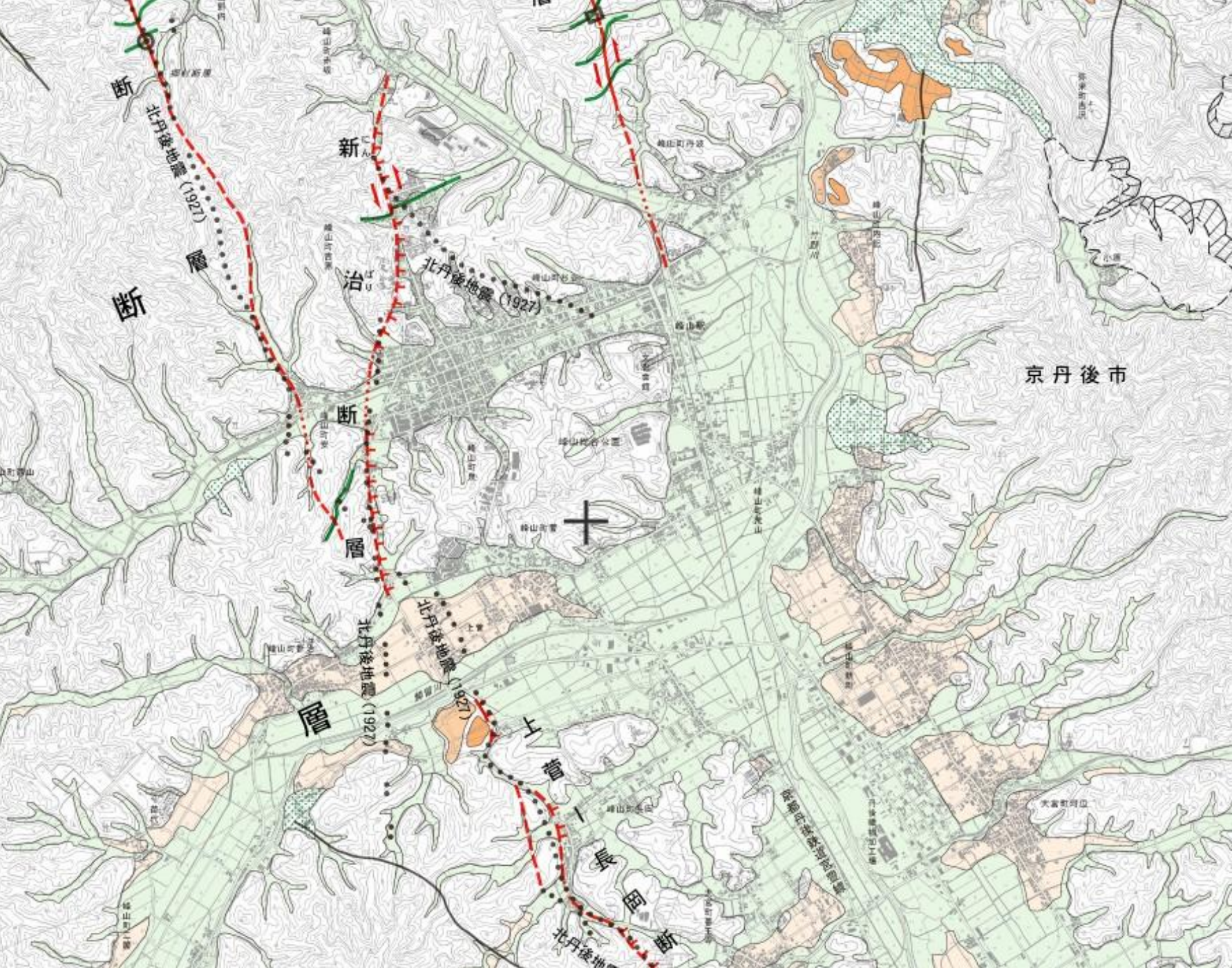


北丹後地震（丹後震災）

- 昭和2年（1927）3月7日、18時27分に発生。
- 丹後半島北部を震源。マグニチュード7.3
- 大宮町～峰山町～網野町の間を走る郷村（ごうむら）断層、岩滝～野田川町を走る山田断層が動く
- 東京帝国大、京都帝国大、東北帝国大が調査。
- 「活断層」という専門用語を初めて使用。
- 昭和4年（1929）、網野町の樋口・小池・生野内の3箇所の断層を天然記念物に指定。







北丹後地震（丹後震災）

- 死者2,925人（府下2,898人）
- 負傷者7,806人、全壊1万2,584棟、半壊9,443戸
- 峰山町、網野町、加悦町、岩滝町で、家屋倒壊率は70～90 %
- 網野町、峰山町、野田川町などで大火。
- 8,287戸が焼失。

丹後大震災

◆ 眞画報 ◆

【丹後新聞社刊】



聖上御差遣
土屋侍從の慰問
岩瀬川にて

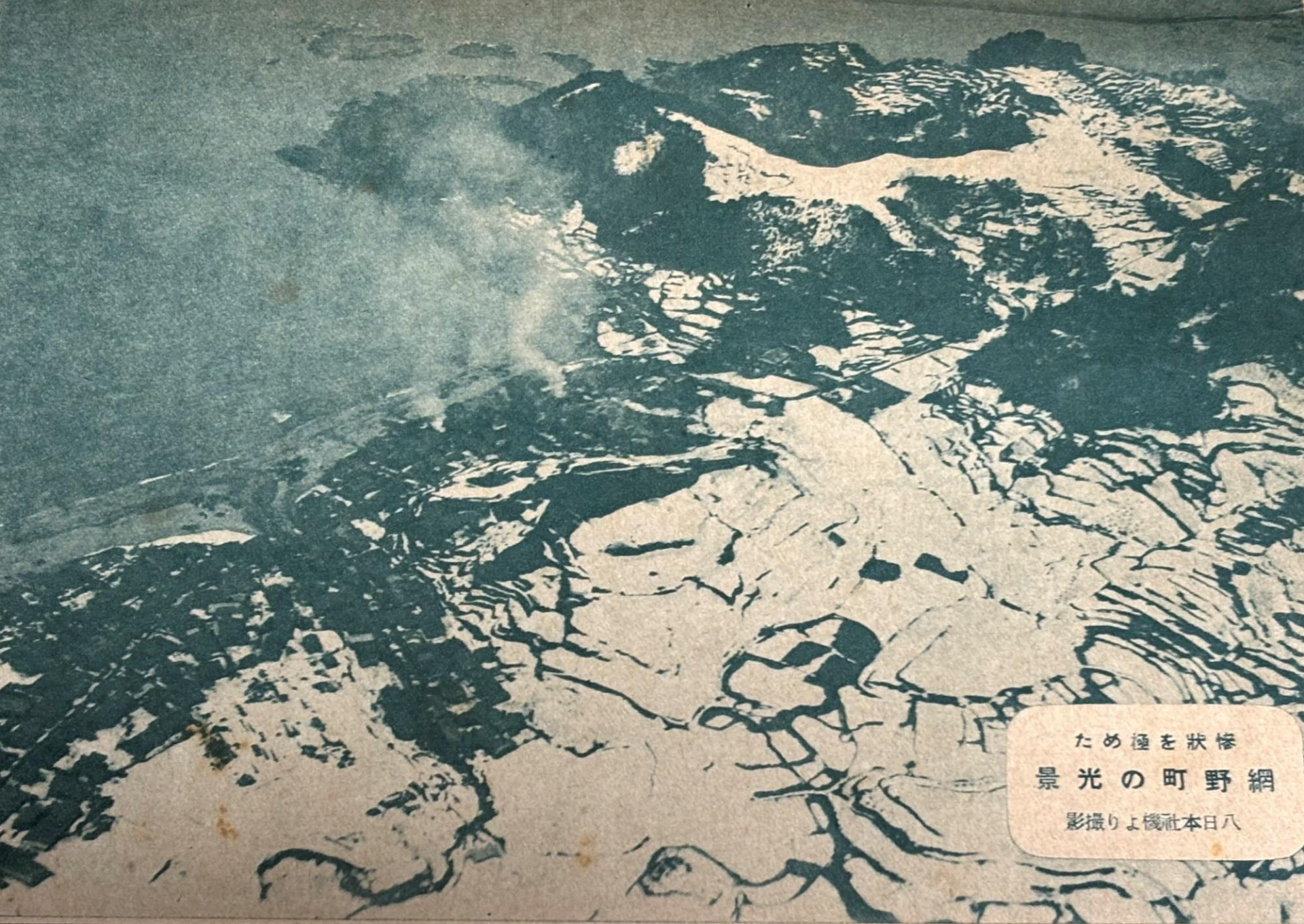
焦土と化した

峰山町

三月八日早朝

本社機より撮影

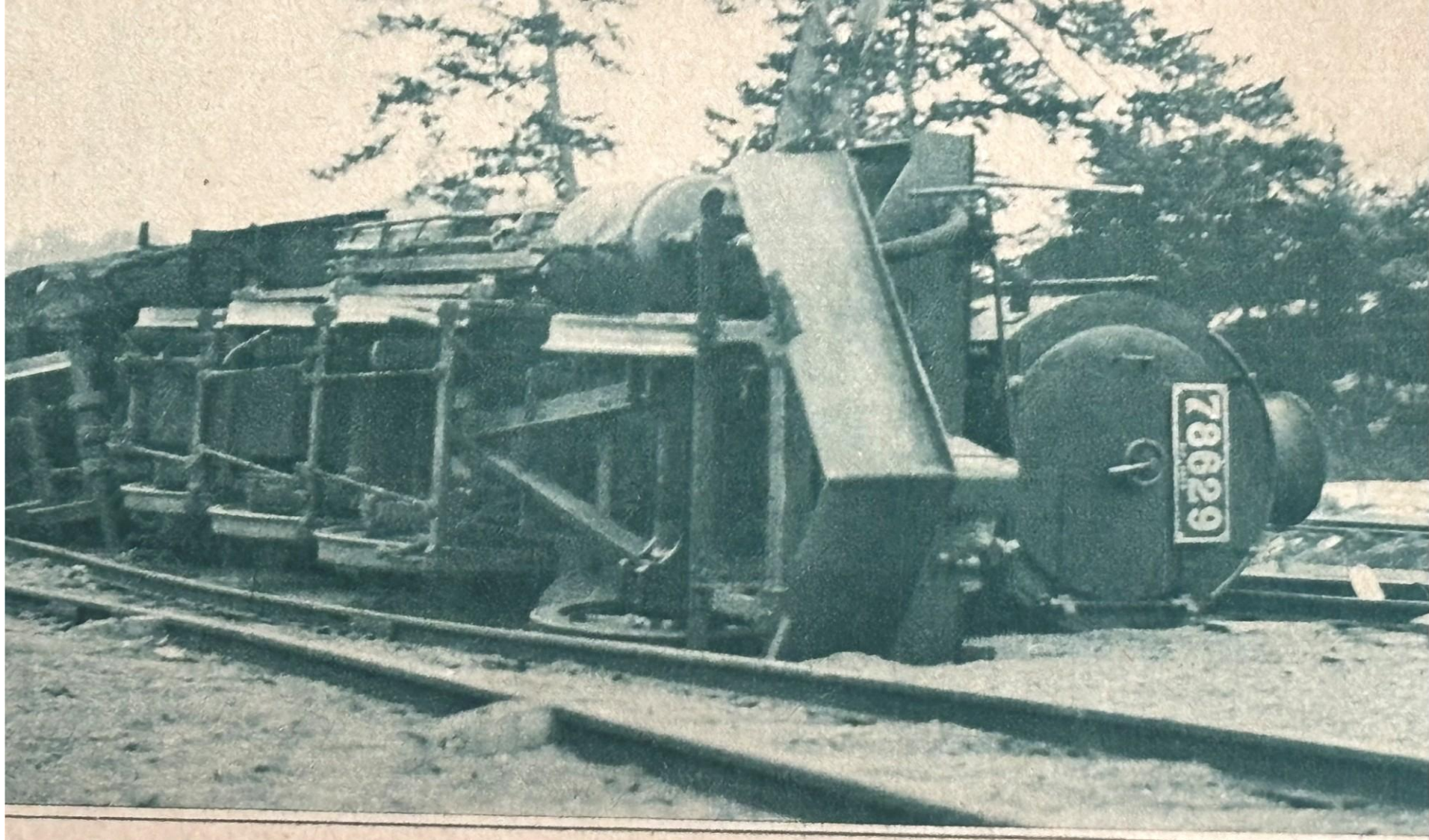




ため極を状惨
景光の町野網

影撮りよ機社本日八





内 構 驛 野 網 覆 順 の 車 列



救護を待つ人々
舞の中に立並して



僧侶の供養
焼瓦を位牌として
(峰山)



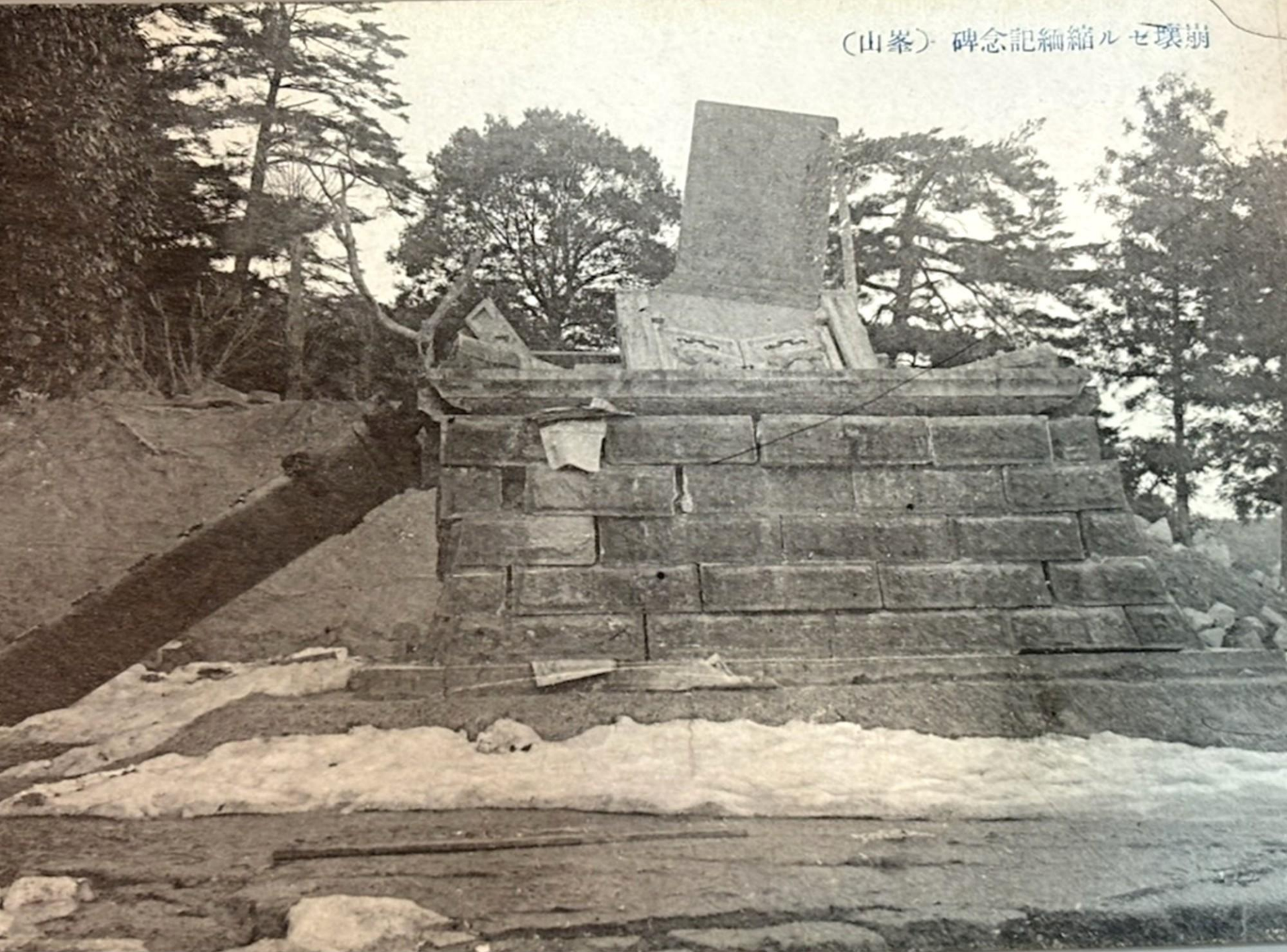


昭和二年三月七日午後大時半
大地震全滅セル細野町全果四枚内



東本町人家倒潰

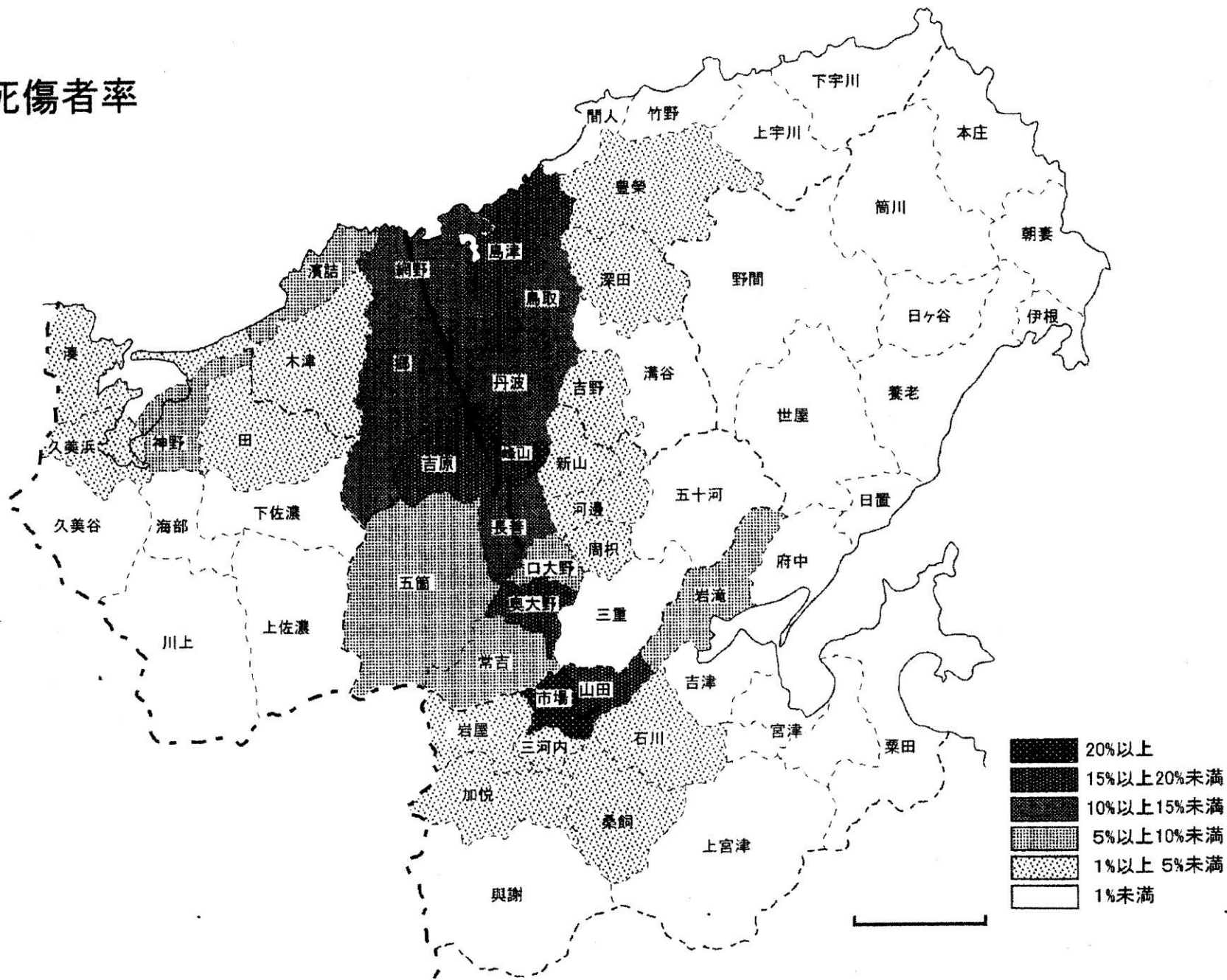
(山峯) 碑念記縮ルセ環崩



部一ノ町野綱ルタレ免ヲ災火ニ的蹟奇



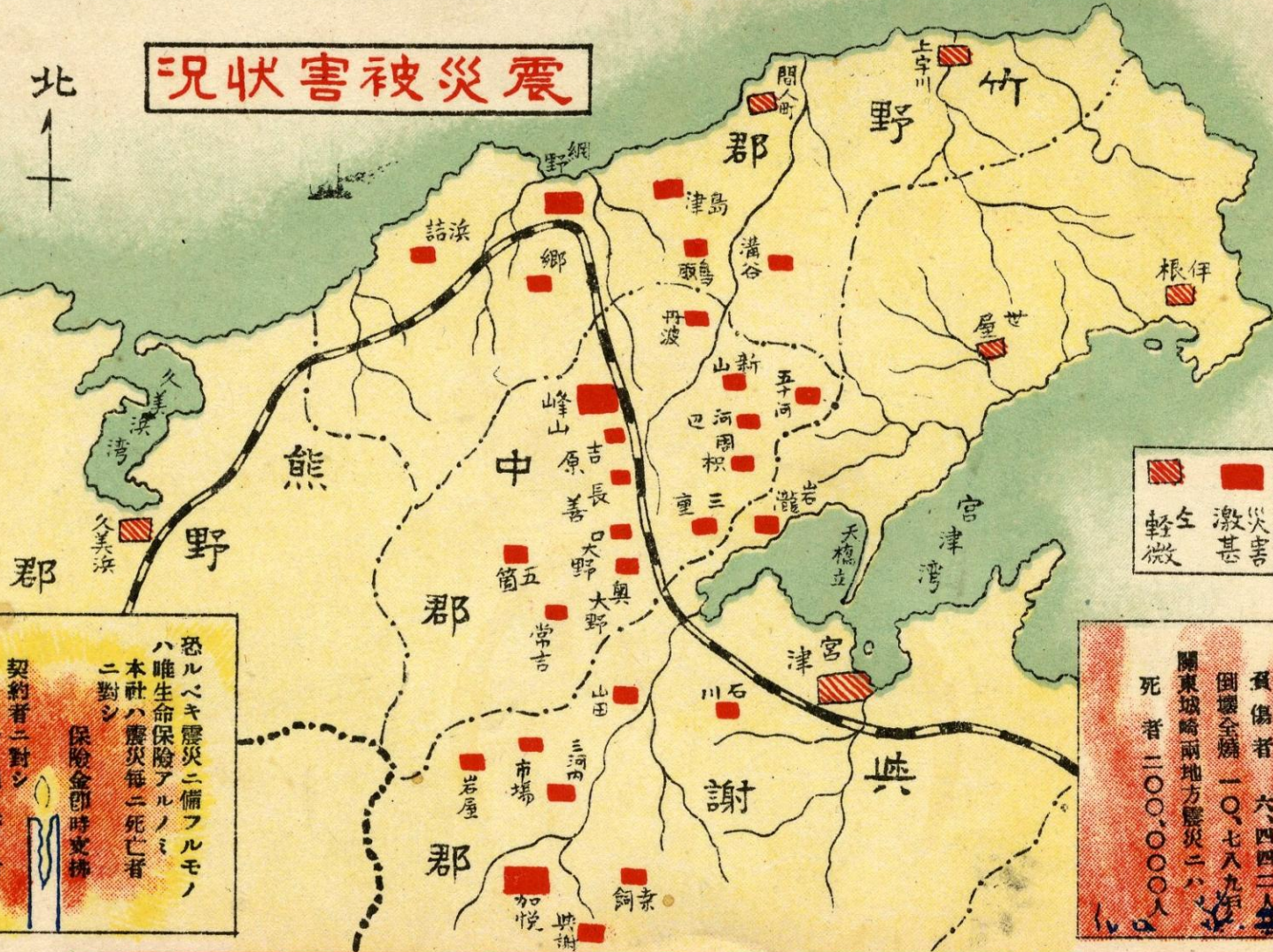
死傷者率



天災地変に豫告なく

生命保険の效果愈々大なり

震災被害状況



災害
激甚
全
輕微

死者 三、五八九人
負傷者 六、四四二人
倒壞全燬 一〇、七八九軒
關東城崎兩地方震災ニハ
死者 二〇〇、〇〇〇人

恐ルベキ震災ニ備フルモノ
ハ唯生命保険アルノミ
本社ハ震災毎ニ死亡者
ニ對シ
保險金即時支拂
金員貸付
見舞品贈呈
其他所謂少額者ノ不幸ヲ多
數者ニテ救済スル保險本來
ノ使命ヲ完フセリ

社會式株險保命生立共本日 の位本者約契



シ 出 堀 者 死 壓



雪を解しか傍路で夕食の仕度(峠山)



隊一の班護救るけ於に町山峯



久美濱町役場及救護班

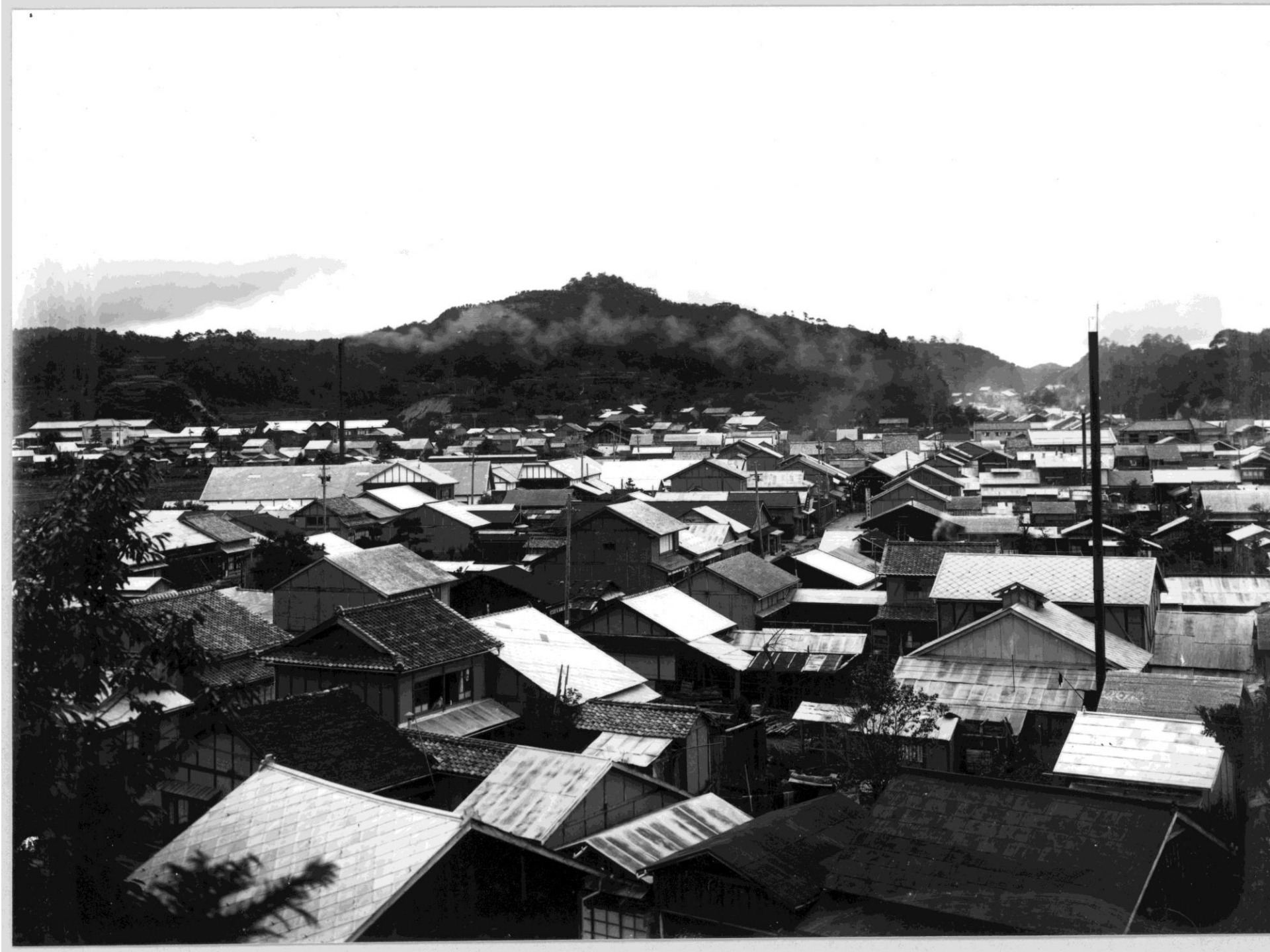




慰問品給與



酒桶ニ避難セシ災者





阪神淡路大震災25年
激震の記録1995
取材映像アーカイブ

- 1 はじめに
- 2 北但大震災と北丹後地震
- 3 震災の遺産
- 4 災害の記憶と記録を次世代に伝える
- 5 復興建築の利活用に向けて

- 1 はじめに
- 2 北但大震災と北丹後地震
- 3 震災の遺産
- 4 災害の記憶と記録を次世代に伝える
- 5 復興建築の利活用に向けて

北丹後地震のレガシー

- 「活断層」が学術用語が使われる端緒。
- 郷村断層は国の天然記念物指定
- 網野町浅茂川西方から、郷村経て峰山町、大宮町口大野へ至る。全長18km。雁行配列をなす10本程度の断層群。
- 最大約100cm隆し、左ずれは最大で270cm。
- 網野町郷の小池地区、樋口地区、生野内の3地点で断層を保存。











郷村
断層





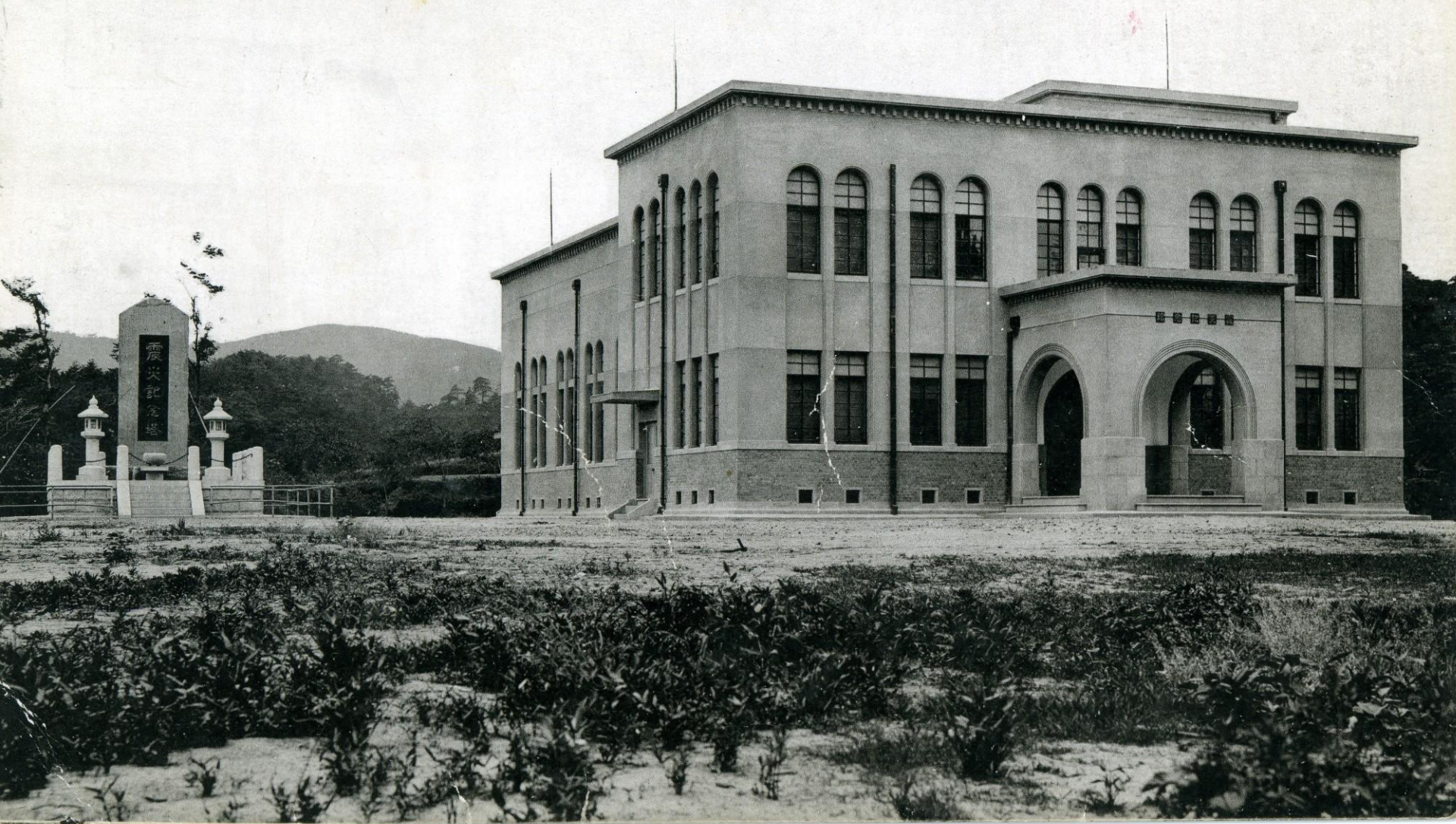
北丹後地震のソフトレガシー

- 春の火災予防運動の契機。
- 震災3年目の昭和5年3月7日、大日本消防協会は、府県の消防協会と共催、第1回の防火運動を近畿地方で実施。
- 京都、大阪、兵庫、滋賀および奈良の二府三県が参加、火災予防に関する講習やラジオによる広報を行ったほか、小学校での火災予防の講話、街頭での広報、チラシの配布、さらには消防職員や警察職員が消防演習を実施。

丹後震災記念館と震災記念塔

- 全国からの義捐金は1年後には約440万円。被災者に配布。
- 震災 1 周年後、義捐金の残金で震災記念施設をと府知事が提案
- 昭和4年12月竣工。
- 鉄筋コンクリート造、地上1階、地下 1 階。
- 京都府技師一井九平が設計。

View of Mineyama Tango.
塔念紀及館念紀災震







丹後震災の記憶

- 記念碑、慰霊碑
- 震災遺産、絵画
- 復興建物 峰山小学校／口大野村役場







丹後震災記念展開催により収集された主な被災資料



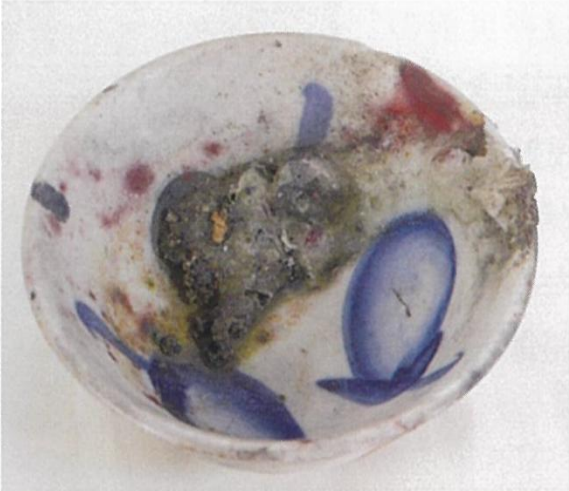
震災の時刻で止まった焼柱時計



震火災を受けた炭化米



震火災を受けた天目茶碗



震火災を受けた染付茶碗



震火災を受けた青磁香炉



震災で焼けた丹後ちりめん



震火災を受けた恵比須像



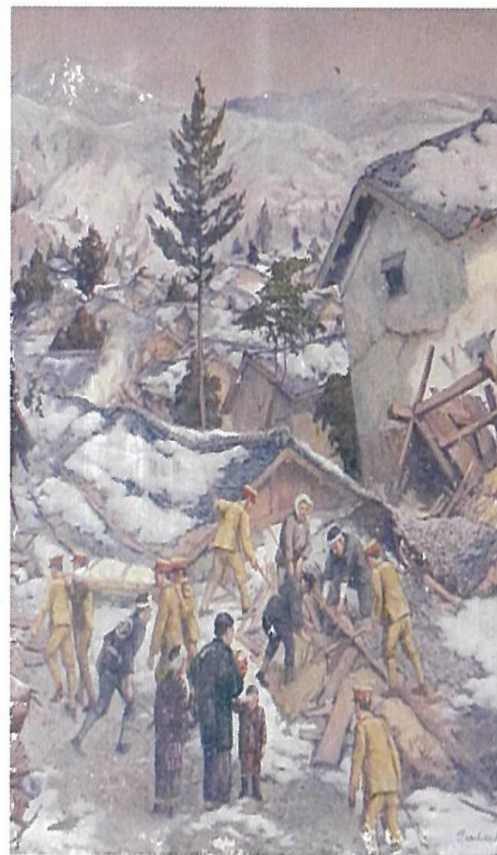
震火災を受けた仏像



震火災を受けた手提金庫



震火災を受けて溶けたお金



丹後震災記念館講堂（会堂）にある伊藤快彦が描いた震災状景画

View of Mineyama Tango.
景ノ校學女及校學小山峰





- 1 はじめに
- 2 北但大震災と北丹後地震
- 3 震災の遺産
- 4 災害の記憶と記録を次世代に伝える
- 5 復興建築の利活用に向けて

- 1 はじめに
- 2 北但大震災と北丹後地震
- 3 震災の遺産
- 4 災害の記憶と記録を次世代に伝える
- 5 復興建築の利活用に向けて

記憶と記録を次世代に伝えるために

- 橋爪が関与した記念館
- 人と防災未来センター
- 津波高潮ステーション
- ピース大阪（大阪国際平和センター）



人と防災
未来センター
開設 20 周年記念









震災資料の収集・保存事業

- 平成7年10月、（財）21世紀ひようご創造協会が「震災とその復興に関する資料・記録の収集・保存事業」を開始。
- 平成10年4月、（財）阪神・淡路大震災記念協会が事業を継承。
- 平成12年6月から約2年間、兵庫県の「緊急地域雇用特別交付金事業」を活用。

震災資料の収集・保存事業

- のべ約450人の調査員に委託。
- NPO、各種団体・組合、復興公営住宅、事業所、学校、まちづくり協議会等を訪問
- ビラ、チラシ、ノート、メモ、写真、避難所で使用された物などの「生の」資料、いわゆる一次資料（原資料）を中心に収集。
- 平成14年4月に、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターが開館
- 約16万点の資料を保存・活用。
-

所蔵する資料

2023 年 3 月末現在

一次資料

総数 198,033 点

阪神・淡路大震災の被災状況を物語るもの、被災地の復旧・復興過程において使用・作成されたもの

*収蔵庫に保管されています。閲覧には申請書が必要です。



モノ
1,457点

5時46分で止まった時計、ボランティア基地や仮設住宅の看板など



紙
188,227点

被災者の日記や手記、避難所の日誌・チラシ、ボランティアの活動記録など



写真
6,266点
(136,704枚)

倒壊した建物や被災したまちの風景、仮設住宅、救援やボランティア活動の様子など



映像・音声
2,083点

被災者が撮影した震災時の映像、地元コミュニティFM局のテープなど

二次資料

総数 45,030点

阪神・淡路大震災およびその他の災害・防災関連の刊行物

*** 資料室内に開架しています。**

どなたでも自由に閲覧できます（貸出は一部映像資料のみ）



図書

15,022点

阪神・淡路大震災関連資料、災害・防災関連図書、地域防災計画書、各種写真集、震災関連一般図書など



雑誌

21,137点

学会誌、建築・自然科学系雑誌、防災関連雑誌など



視聴覚

1,419点

阪神・淡路大震災や防災関連の映像資料、音楽や音声が収められたCD、CD-ROMなど



その他

7,452点

地図、リーフレットや広報誌、チラシ、防災計画ガイドラインなど



災の
記憶をのこす
Preserving Memories
of the Earthquake

恐怖がおそう

Hit by fear

恐怖襲来
공포가 일습하다



105

104

107

112

119

114

震源にガムフックを
つけたら、どんな被害も
しるのかもしれない



218

220

224

226

227

Vespaidero







TSUNAMI

Stome Surge Disaster Prevention Station





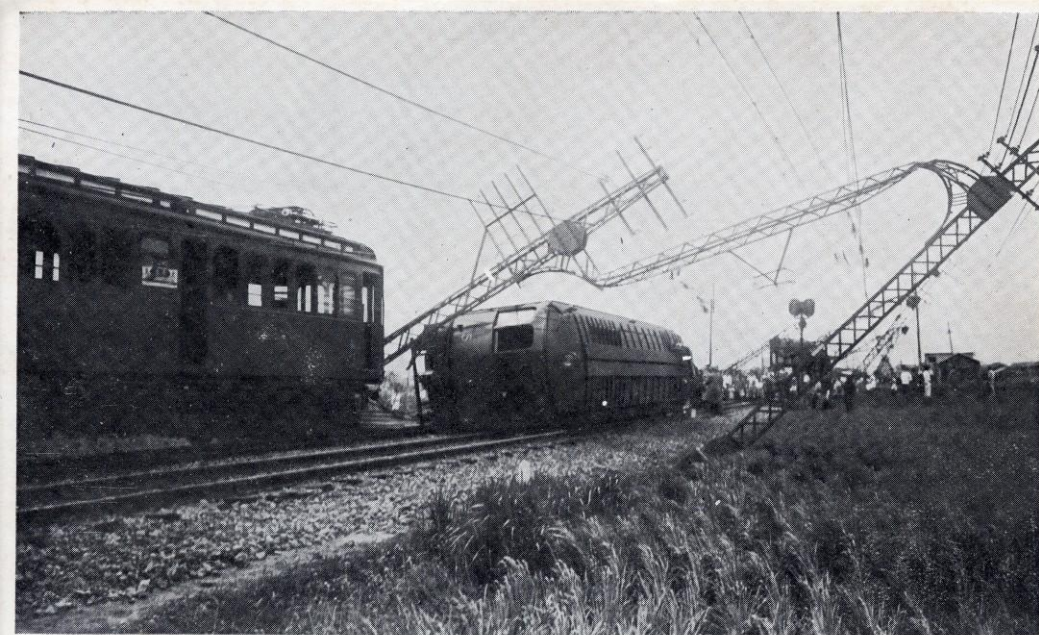


大正六年十月大洪水實況 三十附近逃避支度



三國橋破壤ノ實況

大正六年十月大洪水實況



(近畿地方大風水害) 大軌電車轉覆 (大軌布施)





(近畿地方大風水害) 多数死傷者を出し



(近畿地方大風水害)

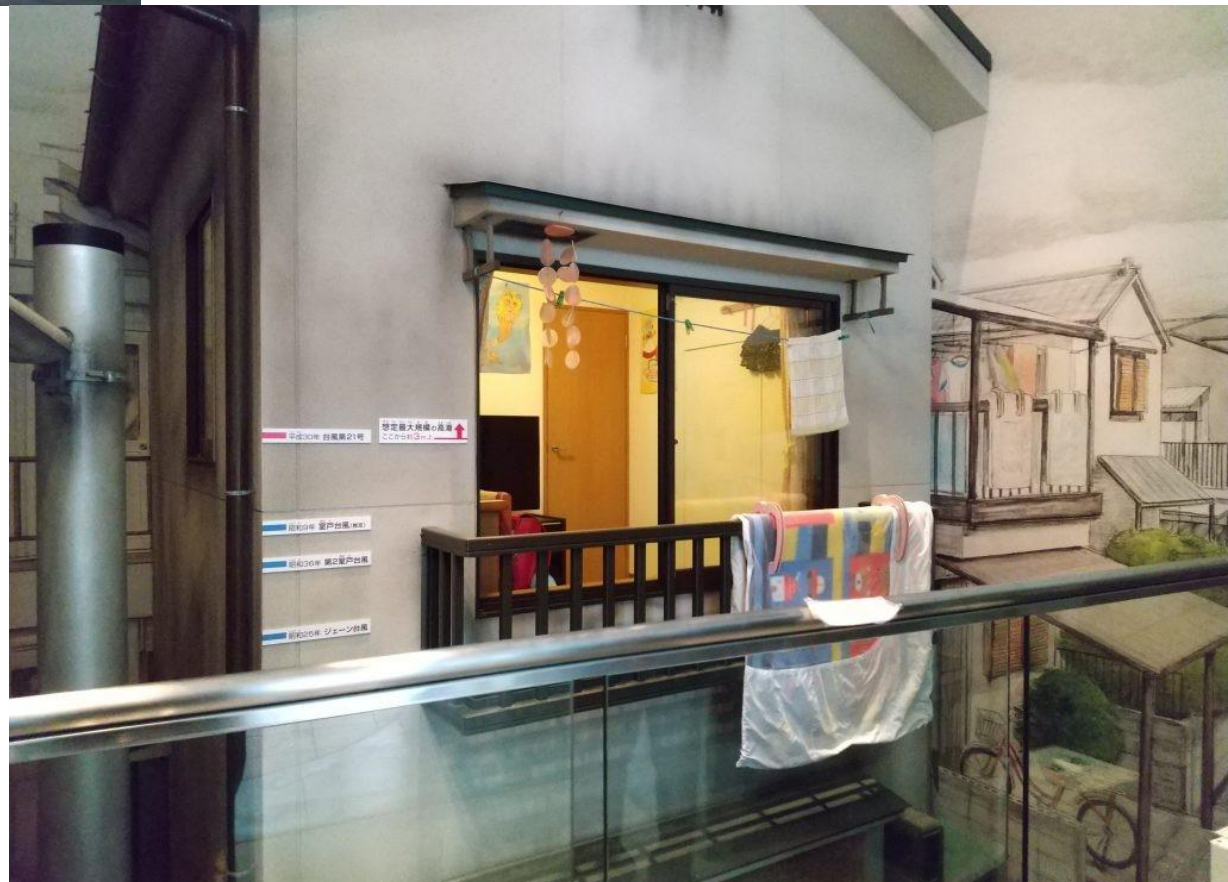
正 蓮 寺 川 附 近







津波体感シアターでの津波の疑似体験









大阪空襲を語り継ぐ 平和ミュージアム

ピースおおさか



ピース大阪（大阪国際平和センター）

- 平和資料館（仮称）基本計画
- 1991開館
- 平和に関する生涯学習・教育の場とする。
- 学校教育における平和学習に協力する施設とする。
- 関連諸団体の交流の場とする。
- 調査・研究機能をもつ施設とする。
- 府民・市民の参加・協力のもとに運営する施設とする。





















刻の庭（とぎのにわ）

- 平成16年（2004）5月
 - 大阪空襲死没者名簿公開
 - 大阪府では8度の空襲
 - 死者12,620人、行方不明者2,173人。
-
- 平成17年（2005）8月 「刻の庭」（とぎのにわ）
 - 「大阪空襲死没者を追悼し平和を祈念する場」
 - 8つの鐘









刻の庭（とぎのにわ）

- 平成21年（2009）3月
 - 「刻の庭」壁面の整備事業
 - 15000人の子どもたちにタイルに刻印
-
- 令和3（2021）年9月
 - 「刻の庭」の銘板に大阪空襲死没者追加登載





次世代に向けて。 ピースおおさかの使命

- 設立時のミッションを再確認
 - 過去をふりかえると同時に未来に向かう施設。
 - 戦争を知らない若い世代に、平和を訴える。
 - 世代間や国際間の交流に応じ、市民が集う開放的な施設。
 - 調査・研究機能をもつ。
-
- 建物に託された平和へのメッセージ
 - 多様性を認めあい、個々に自立すること。

国際的な取り組み

- ・日本・ポーランド国交樹立100周年、第二次世界大戦勃発80年などで、平和を祈念するイベントを開催。





- 1 はじめに
- 2 北但大震災と北丹後地震
- 3 震災の遺産
- 4 災害の記憶と記録を次世代に伝える
- 5 復興建築の利活用に向けて

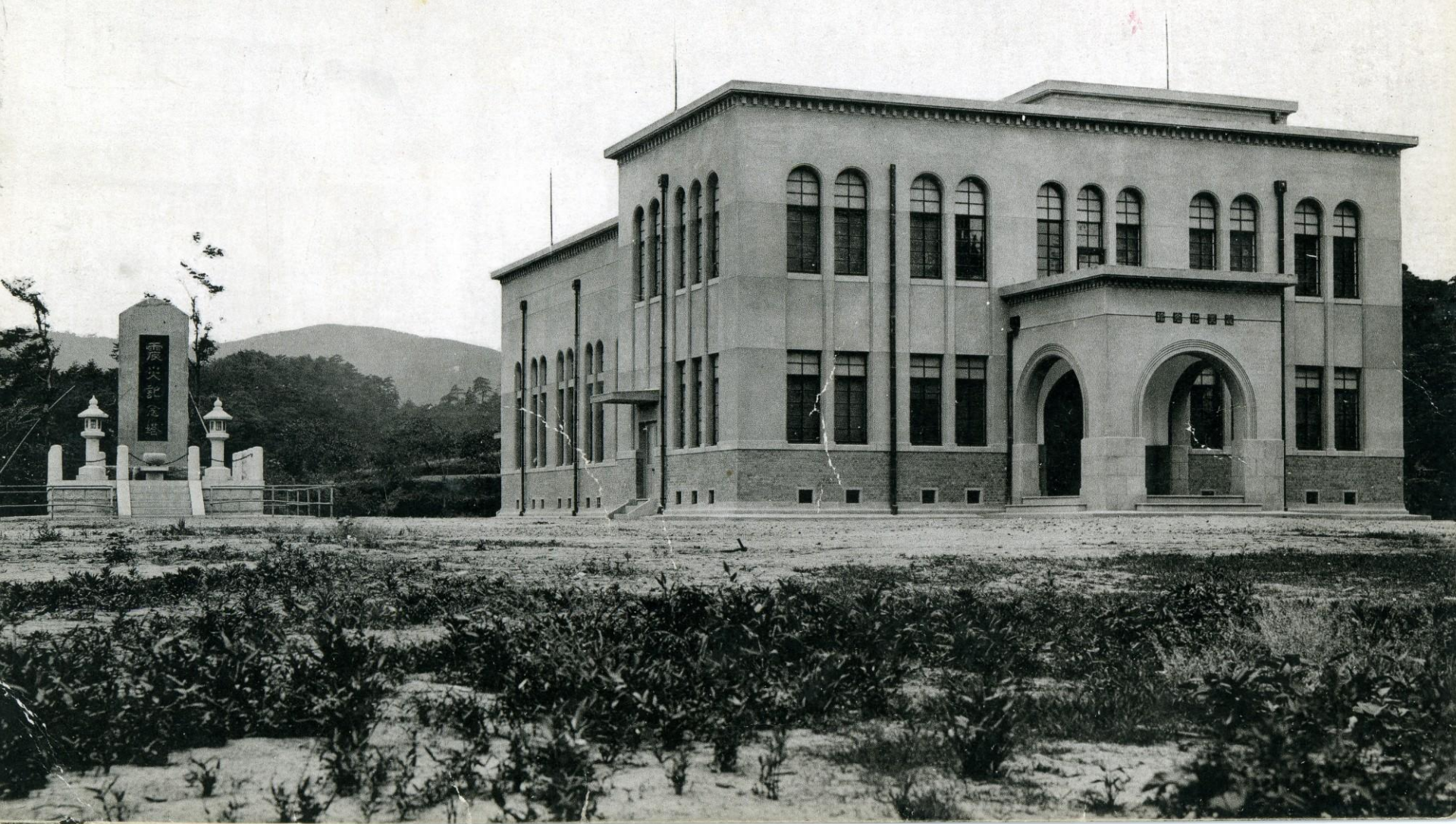
- 1 はじめに
- 2 北但大震災と北丹後地震
- 3 震災の遺産
- 4 災害の記憶と記録を次世代に伝える
- 5 復興建築の利活用に向けて

丹後震災90年

過去の災害から現在の防災へ



View of Mineyama Tango.
塔念紀及館念紀災震





詔

定

記

災

變

復興建築の利活用に向けて

- 震災の記憶保存、震災の記録保存
- 全国からの義捐への感謝を継承
- 来る次の災害への備え
- 防災意識の高揚
- 文化財の利活用
- 市民や訪問者が平時も利用

復興建築の利活用に向けて

- 丹後震災記念館に関して
 - 丹後震災記念館の耐震対策
 - 丹後震災記念館の利活用
- 復興建築の活用
 - 峰山小学校校舎の耐震補強と文化観光等の活用
 - 口大野村役場の活用
 - 記念碑、慰霊碑、震災遺物の利活用

復興建築の利活用に向けて

- 丹後震災記念館に関して
 - 設立時の想いを再確認
 - 過去をふりかえると同時に未来に向かう施設。
 - 次世代に防災の意義を訴える。
-
- 桜の復活と紅葉の名所という特徴を活かす
 - 市民が集う開放的な施設。
 - 国際交流、観光集客をはかる。
 - 地域の歴史や防災に関する調査・研究機能をもつ。

復興建築の利活用に向けて

- 市内全体での機運醸成
- 100周年に向けて、機運を盛り上げるプログラムが必要
- 市民の想いを集める防災イベント、地域の文化財建物の活用事業など
- 市民の想いを集めて、丹後震災記念館の耐震化と利活用を
- クラウドファンディング、企業版ふるさと納税、個人的ふるさと納税

丹後震災100周年に向けて

- 2025～2027にかけて機運醸成
- 100周年に向けて、市内各地で「我がごと」として、機運を盛り上げるプログラムが必要。
- 「丹後震災100年記念事業実行委員会」を設置
- 地元高校生のアイデアも取り込み、事業を展開。
- プレイベントを実施。発災時の写真と同じ場所で撮影会。

ご清聴ありがとうございました。

丹後震災記念館



歴史文化都市宣言